

一般的

いろいろな人の個性が出て面白い。  
 ・目的に応じてみることができる  
 ・必要な情報を探することができる  
 ・宣伝効果がある。  
 ・幅広い層へ自社の宣伝や商品の販売ができる  
 ・多様性・・・テレビなどのメディアだけだった時代には、海外の情報は、欧米中心に流れており、一方からの偏った報道になりがちだった。誰でも、簡単にホームページを開くことができることにより、両者の意見を誰でも簡単に入手することができる、客観的に判断する材料となる。  
 ・新たなコミュニケーションの場として・・・現在、耳が不自由な人などの人のコミュニケーション手段として必需品となっている。また、家に閉じこもり、狭い世界で生きてきた障害者にとって、ホームページを通じての外との交流は新たな世界を広げている。専業主婦など核家族化の進む現代において、子育てなどについての祖父祖母から得ていた知識をホームページを通して、アドバイスをもらったりするなど新たなコミュニケーションの場としての役割を担っている。また、小さな子どもから老人まで、ホームページを通して、専門的な事についてでも、同じ立場で意見交換をすることができる。専門家など従来簡単に知り合うことができなかった人とも知り合えるようになった。  
 ・機会の平等・・・誰でも気軽に情報発信ができることから、誰にでもビジネスチャンスが広がっている。  
 ・双方向性のコミュニケーション・・・ホームページの掲示板では、新聞などと違って、瞬時に、発信のみならずその反応が返ってくる。政治に関する各政党や新聞のホームページやでは、かなり質の高い政策論争が、政治家と一般市民の間で行われている。また、企業が商品開発のため、一般市民から広く意見を集め、市民の声を商品開発にいかしたりということも行われている

学校

・学校行事などの取り組みが映像や写真で記載されてわかりやすい。  
 ・施設や教室の風景がわかる  
 ・学校の様子などが手に取るように分かり、大変参考になる。また、ホームページも作者の個性が出ていてすばらしい  
 ・活動や考えを紹介して、意見を聞くことができる。  
 ・必要な情報をいつでも得ることができる  
 情報収集の手段・・・簡単に多様な情報が得られるようになった。  
 ・他との交流の機会・・・他の意見を聞くことが難しい、小規模校においても、ホームページなどを通じて他との交流を図る機会ができることで解決できる。  
 ・発信型の教育へ・・・コミュニケーション能力の中でも、人にものを伝える力の育成が叫ばれている現代において、ホームページ作成はその場を提供できる。  
 ・生徒の作品への反応・・・自分の作品に対する反応は動機づけになる。  
 ・地域や学校の格差・・・例えばいじめの問題など、学校などによって格差があると思われるものについても、インターネットを通じての意見交換により、意見を深めることができる。  
 ・開かれた学校・・・総合学習において、民間の人たちの学校教育へ登用のが言われているが、その時に、学校教育の内容の発信は必須である。開かれた学校とするための、発信の場となりうる。  
 ・新たなコミュニケーション・・・話すことが苦手な生徒でも、チャットの機能を使って、討論やなどをすると、普段発言しないような生徒まで発言したり、それぞれの生徒の発言の回数が平均したといふ報告もある。

・つくる人で主観が違い正しい情報が分からないときがある。  
 ・参考文献や資料名がはっきり書かれていない場合がある  
 ・必要なホームページにたどり着くまで時間がかかった、たどり着けなかったりすることがある  
 ・有害情報  
 ・匿名性・・・実名を公開しなくとも、発言できるので、それによる道徳性が欠如した発言がある。また、流れている情報が真実かどうか分からない。情報教育の必要性  
 ・インターネットの関係の言葉が英語であるということ・・・英語を母国語としている民族以外にとっては、分りにくくなってしまっている。また、海外の情報を収集する場合、アメリカが開発したシステムなので、どうしても英語がその共通語となってしまう。(その一方、アメリカやイギリス言葉としての英語ではなくなってきているという現状もある。英語のアイデンティティの喪失)  
 ・情報をいかにに使いこなせるかどうかで、大きく変わるといわれる現代において、高齢者や障害者、また機械に弱い人間などの情報弱者と言われる人々をつくらないようにするための取り組みが急務とされている。誰でも簡単に扱えるパソコンの開発などが進められている。また、視覚障害者のために、音声で再生できるソフトによるホームページ作成が行われ始めている。  
 ・著作権の侵害・・・簡単に情報が得られ、その情報を加工しやすいことから、著作権の侵害が問題となっている

生徒のプライバシーをどこまで守れるか。  
 犯罪や商売などに利用される恐れがある  
 ・見るのはいいが、作るのには相当な技術と手間がかかりそう

・通信教育(国内)・・・日本国内の大学、大学院で、インターネットの導入が進んでいる。チャットの機能、メーリングリストの利用により、教授との論文の指導や、レポートの提出などを行う。テレビ会議システムなどの導入も検討されている段階。通信制の大学院が、最近どんどん誕生しているが、それを可能にした要因のひとつにインターネットの出現があげられる。また、通信での大学卒業は困難とされていた原因の一つとして、情報交換の場がなく、孤独な戦いであったことがあげられるが、学生によるメーリングリストやホームページができ、活発な意見交換が行われており、情報交換や情報収集が可能になった。大学のみならず、通信教育を扱う企業も、ホームページやメーリングリストの機能を使い、新たなサービスを提供し始めている。  
 ・通信教育(海外)・・・海外の大学に留学するとしたら、その費用は膨大なものになり、また、社会人は一度仕事を辞めなければならないなどの問題があったが、インターネットを通じて、海外の大学での単位取得が可能となっている。生涯学習が叫ばれている今日、社会人向けとして注目を浴びている。

## InternetE-mail

<p>一般的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話より本音で言える</li> <li>・深夜でも大丈夫</li> <li>・相手の時間帯の都合を考えなくていい</li> <li>・後から読み返せる</li> <li>・世界各国の人たちとメールのやり取りが短時間でできる。</li> <li>・世界中の人たちとの交流によって知識が広がる</li> <li>・簡単にメールを送受信し、知りたい情報が見える。便利さはこの上ない</li> <li>・情報が早く伝わり、また、必要な時に得ることができる。</li> <li>・幅広く情報の交換ができる。</li> <li>・多数の人の考え・信条を知ることができる</li> <li>・電話と違い、相手が都合のいいときにメールを見ることができ、気軽にメールを送ることができる。海外との連絡においては、時差を気にする必要がない。</li> <li>・添付ファイルの形で、文書などを送ることができるので、ファックスと違い、受け取った文章にいろいろと付け足したりすることができる。また、コストが安く、一度に多くの人にメールの送信が可能である。</li> <li>・メーリングリストなどによる意見交換も活発に行われている。メーリングリストにより、専門的な最新の知識を一般人が簡単に、いち早く得ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接でないのでもちゃんと連絡がついているか心配</li> <li>・ウイルスの問題</li> <li>・個人のメールを他人に見られるおそれがある</li> <li>・顔が分からないのが少々危険な気もする</li> <li>・金がかかること</li> <li>・情報が漏れるおそれがある。</li> <li>・設備に費用がかかる。</li> <li>・操作が難しい</li> <li>・確実に相手がメールを受け取って読んだかどうかの確認が困難。急用であれば、電話などで確認する必要がある</li> </ul>
<p>学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの情報が入手できる</li> <li>・パソコンに親しみやすくなる</li> <li>・学校間の交流が広がる</li> <li>・多くの人と意見交換をすることにより考え方がわかる</li> <li>・全国の学校の情報が瞬時に取り出せ、交流などができ、メールのやり取りが行え、メールでの相談なども可能</li> <li>・機器を自分で操作する事により興味・関心がわく</li> <li>・自分の考えを多くの人に知ってもらうことができる</li> <li>・過疎地の小規模校においても、安いコストで、他との交流の機会を作ることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メールばかりで会話が減る可能性があるのでは</li> <li>・パソコン上の付き合いだけの関係で、生の会話が成立しない。</li> <li>・話すことがおっくうになり、パソコンに逃げる可能性がある。</li> <li>・相手がどんな人かわからず、また、その情報が正確かどうかわからない</li> <li>・携帯電話等での中高生の利用にはモラルが必要</li> <li>・大規模校においては、パソコンにいつでも生徒が気軽にさわられる環境を作るとは小規模校に比べて難しい</li> </ul>

## テレビ電話・テレビ会議システム

<p>一般的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きた生の会話が成立する。</li> <li>・どんな離れた場所においても逢いたい人や話したい人と顔を見て話せる</li> <li>・相手の表情などが分かり、臨場感がありよい</li> <li>・離れた場所で多数の人が同一資料を介して話し合いができる。</li> <li>・表情が見え音声が届くので感情が伝わり効果的である</li> <li>・遠隔地でも、簡単に会議をすることができ、出張費などの大幅な削減と、時間の有効利用ができる。</li> <li>・障害者・高齢者など・外への外出が困難な障害者にとっては、外との交流の場を作ってくれる。また、テレビ会議システムとインターネットを使えば、障害者が家に居ながらにして、今まで以上に多様な仕事ができるなどの可能性がある。</li> <li>・地方と都市の差・・・仕事の関係で、都市への集中が見られたが、マルチメディアを使えば、地方にいても、都市に在るとあまりさのない仕事ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用がかかる。</li> <li>・技術者の問題</li> <li>・設備に費用がかかる。</li> <li>・操作が難しい</li> <li>・まだまだ、設備投資などに費用がかかるので、普及しておらず、気軽に使えない</li> </ul>
<p>学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業 学級活動 生徒会活動等の交流や取り組みが同時進行できる</li> <li>・視覚に訴えるのは抜群の効果があると思う。授業等で使用することが可能になれば、生徒の理解の助けになると思う</li> <li>・小規模校等は、多数の人と交わることができ、集団としての活動が体験できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械 設備の問題</li> <li>・今のところあまり一般的ではないような気がする</li> </ul>